

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年8月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170400564
法人名	有限会社 サンシャイン
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来)
所在地 (電話番号)	〒501-6228 羽島市正木町不破一色305番地 (電話)058-391-1345

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成20年6月20日

## 【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20人
利用定員数計	18人
常勤	18人
非常勤	2人
常勤換算	7.7人

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	19,600 円	
敷金	有( ) 円		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	68歳	最高	93歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	岩佐医院 ・一宮西病院 ・上林記念病院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームすずらん幸せの再来は「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、いっしょに支え合うケア」を運営理念としており、施設長・管理者・職員は利用者のことをまず考え、ケアに一生懸命取り組む姿勢を大事にしている。様々な研修や検討を重さね、利用者が気持ちよく、家族のように暮らせる生活の支援を目指している。利用者は菜園の収穫、散歩、時には外食やお花見などの楽しみもある。利用者同士の思いやりも見受けられ、日々の生活をゆったりと自分らしく暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の取り組みを期待したい点は4点あったが、運営推進会議や行政との連携はホームに対して外部の助言を活かす取り組みをしている。運営に関する家族の意見の反映は代表者・施設長も活かせる体制づくりに取り組んでいる。職員を育てる取り組みは、ホーム内で研修等に取り組まれているが、さらにサービスの質の向上に結びつけるためにも、外部研修に多くの職員が参加できる研修計画の作成を期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対して、各職員の意見も反映させ、話し合いの場があり、評価に対してサービスの質の向上に活かせるよう改善に向けての取り組み姿勢が見られる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は積極的に市町村担当者や地域の民生委員、家族に参加の呼びかけをして、外部からの意見を積極的に聞き、ホーム運営に活かせるように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに來訪して、意見を気軽に伝えられるような機会づくりがある。また管理者・施設長は家族の意見等を把握し、その課題に向けて双方が前向きな姿勢で取り組みつつある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者自らが積極的に取り組む姿勢があり、地域のボランティアの受け入れやホームの行事等の案内を働きかけている。利用者も散歩や菜園作業などで戸外に出ることによって、交流の機会がある。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	楽しく、自由に、ありのままに一緒に支えあうケアを目指し、「ゆったりと」「自由に」という理念を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念の取り組みを職員会議で職員と具体的に話し合い、収容するのではなく、自由にありのままのケアの実現にむけた介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方たちへホームのことを認知してもらえるようにホームの行事への案内やボランティアの受け入れなどを行っている。ホームの夏祭りなどには近所の方たちが訪問している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する意義を理解していて、さらに評価で得られた課題に対して具体的な取り組みを検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を有効に活かせるように参加者メンバーに積極的に働きかけ、外部の意見を聞き、サービス向上に繋げるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の考え方や情報を共有するために市町村担当者と相談や連絡を密にしてサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホームよりホーム便りを郵送しているが、それ以外に家族の訪問ができるよう働きかけ、ほとんどの家族が月1回以上の訪問がある。中には週に2～3回の訪問される家族もあり、訪問しやすい雰囲気となっている。その時を利用して利用者の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の選任を行い、苦情相談窓口を設置している、家族側からの意見も把握している。また、意見も聞くよう意見箱や来訪時に家族と話をする機会を設けるよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動等が利用者への影響は知っていて職員の異動は最小限にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で職員研修を設け、知識や技術の習得ができるようにしている。	○	内部研修のほか外部の研修を受講する機会を設けた年間計画を立てることによって、さらなるサービスの向上に繋がられることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し意見交換や情報交換がなされている。また、地域の勉強会に参加して、サービスの向上に努めている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族が不安に思っていることを聞き取ったうえでホームでの生活の様子を説明している。可能であれば本人に見学してもらうなど、利用者がホームの雰囲気に馴染めるように支援がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識はもたないで、一緒に過ごす日常生活の中から関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや願い、要望などは職員が聞き取って受け止めるようにしている。会話や思いを受け取ることが困難な利用者に対しては職員間の情報交換や観察などで柔軟な対応と検討がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族に思いや要望等の話を聞き、反映できるようにスタッフ全員がかかわり介護計画の作成に活かしている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月の見直しがされているが、それ以前でも利用者の状態の変化が生じたときには職員会議で検討し、家族・主治医等関係者で話し合い計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族と相談の上、通院介助、買い物、理美容院への支援を行っている。又、希望者には週2回の訪問リハビリ、年間行事として少し遠くへの外出支援等が計画されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医の往診が月2回あり、希望者には歯科医院の訪問もある。利用者の希望する医療機関の受診支援も行っており、ホームと家族、医療機関との連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についてのホームとしての指針を持っており、入所時のほか、必要に応じて本人・家族とも話し合いの機会を持っている。職員全員間でも情報を共有し、主治医と連携を取りながら支援がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、職員間で互いに注意しあって言葉がけにも気を配っている。職員会議でも話し合い、検討している。記録物等の個人情報の取り扱いについても保管場所や扱い方を慎重に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせず利用者の身になって考え、どうしたいのかを受け止めて、支援がされている。職員会議においても話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの料理であり、希望のメニューに添いながら利用者も出きる範囲でお手伝いがされている。食事も介助しながら職員も利用者と一緒に食べている。味は好みの味つけをしているが病気のため制限ある人にはその配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気持ちよく入浴できるよう回数や時間を配慮し、週2～3回は入浴してもらえるように声かけや誘導の仕方を工夫している。毎日の入浴を希望する利用者にも希望に応える対応をしたこともある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	動くことの大切さを考え、散歩、レクリエーション、畑の収穫、部屋の掃除、草花の水やりなど、生きる喜びや張り合いを感じてもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら本人の希望に添って外出できるようまた車椅子で外に出かけられない人には外気にあたるよう支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の少し出でみたいと思う気持ちを受け止め、日中は自由に出入り出来るよう、鍵はかけていない。職員会議では具体的な支援の仕方について話し合いも行っている。玄関の戸には小さな音が鳴るように工夫がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を利用者と共に行っている。家族・地域の方にも呼びかけているが参加がなかった。非常用食料の確保がされているが水についてはなかった。	○	今後非常用の水を常備され、地域の方の協力が得られるようさらなる呼びかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し表にしている。少ない人に対しては時間や嗜好など考慮して摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は清潔に保たれ、感染等の配慮がされている。季節の花を飾り、畳の間もある。利用者は横になったり、腰掛けたり、一人ひとり ゆったりと過ごせる共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが生活しやすいようになっている。家から持参したタンス類や置物、孫や曾孫の写真を飾っていたり、とても和む部屋となっている。		